

市立小中学校耐震診断結果

HH27.2

学校名	棟名	建設年	区分 (※1)	構造・ 階数 (※2)	延べ面積 (㎡)	診断結果(※3)					耐震補強等				
						実施年 度	診断方 法	優先度 調査	最小Is 値	最小CTU × S _D 値 (q値)	実施年度	最小Is 値	最小CTU × S _D 値	q値	
吉川小学校	校舎	H14	新基準	RC3	6,611										
	体育館	S50	旧基準	S1	630			改築済			H13~H14に改築	—	—	—	
旭小学校	校舎	管理棟	S61	新基準	RC2	1,143			耐震補強済(Is0.48、q0.96)			H26	0.84	—	1.53
		教室棟	S61	新基準	RC4	2,302			耐震性あり			—	—	—	—
		体育館	S53	旧基準	S1	701			耐震補強済(Is0.33、q1.01)			H23	0.79	—	1.43
三輪野江小学校	校舎	管理棟	S49	旧基準	RC3	1,176			耐震補強済(Is0.43、CT×SD0.32)			H22	0.77	0.84	—
		教室棟(東側)	S54	旧基準	RC3	1,083			耐震補強済(Is0.30、CT×SD0.38)			H22	0.75	0.38	—
		教室棟(西側)	H7	新基準	RC3	1,569			耐震性あり			—	—	—	—
		体育館	S53	旧基準	S1	688			耐震補強済(Is0.23、q0.69)			H22	0.76	—	1.43
関小学校	校舎	教室棟(東側)	S47	旧基準	RC4	2,059			耐震補強済(Is0.36、CT×SD0.24)			H15	0.95	0.33	—
		教室棟(西側)	S53	旧基準	RC4	1,918			耐震補強済(Is0.21、CT×SD0.27)			H15	0.76	0.38	—
		管理棟	S57	新基準	RC2	1,343			耐震性あり			—	—	—	—
		体育館	S50	旧基準	S1	736			耐震補強済(Is0.28、q0.86)			H23	0.79	—	1.32
北谷小学校	校舎	教室棟(東側)	S50	旧基準	RC4	2,508			耐震補強済(Is0.24、CT×SD0.31)			H21	0.78	0.4	—
		教室棟(西側)	S51	旧基準	RC4	1,524			耐震補強済(Is0.32、CT×SD0.41)			H21	0.78	0.37	—
		管理棟	S59	新基準	RC1	554			耐震性あり			—	—	—	—
		体育館	S51	旧基準	S1	700			耐震補強済(Is0.39、q1.21)			H24	0.76	—	1.37
栄小学校	校舎	東棟	S54	旧基準	RC4	3,914			耐震補強済(Is0.52、CT×SD0.29)			H11	0.81	0.34	—
		西棟	S56	旧基準	RC4	1,143			耐震補強済(Is0.64、CT×SD0.37)			H11	1.00	0.33	—
		体育館	S54	旧基準	S1	700			耐震補強済(Is0.41、q1.26)			H25	0.90	—	1.64
中曽根小学校	校舎	管理棟	S56	旧基準	RC4	1,935			耐震補強済(Is0.67、CT×SD0.23)			H19	0.96	0.46	—
		特別教室棟	S56	旧基準	RC4	1,051			耐震補強済(Is0.50、CT×SD0.22)			H19	0.76	0.39	—
		教室棟(東側)	S59	新基準	RC4	954			耐震性あり			—	—	—	—
		教室棟(西側)	H5	新基準	RC4	783			耐震性あり			—	—	—	—
		体育館	S56	新基準	S1	725			耐震性あり			—	—	—	—
美南小学校	校舎	教室棟(北側)	H25	新基準	RC3	2,689			耐震性あり			—	—	—	—
		教室棟(南側)	H25	新基準	RC3	4,006			耐震性あり			—	—	—	—
		昇降所棟	H25	新基準	RC3	366			耐震性あり			—	—	—	—
		体育館	H25	新基準	S1	1,093			耐震性あり			—	—	—	—
東中学校	校舎	管理棟	H3	新基準	RC4	3,873			耐震性あり			—	—	—	—
		教室棟	H3	新基準	RC3	2,050			耐震性あり			—	—	—	—
		体育館	H10	新基準	RC2	1,508			耐震性あり			—	—	—	—
南中学校	校舎	管理棟	S47	旧基準	RC3	2,226			耐震補強済(Is0.40、CT×SD0.28)			H21	0.76	0.51	—
		特別教室棟	S47	旧基準	RC3	1,087			耐震補強済(Is0.26、CT×SD0.18)			H21	0.79	0.38	—
		昇降所棟	S46	旧基準	RC3	198			耐震補強済(Is0.30、CT×SD0.25)			H21	0.8	0.59	—
		教室棟(西側)	S46	旧基準	RC3	2,056			耐震補強済(Is0.34、CT×SD0.34)			H21	0.79	0.49	—
		教室棟(東側)	S57	新基準	RC3	1,222			耐震性あり			—	—	—	—
		体育館	S47	旧基準	S2	1,474			耐震補強済(Is0.23、q0.71)			H22	0.86	—	1.57
中央中学校	校舎	S56	旧基準	RC4	6,004			耐震補強済(Is0.32、CT×SD0.15)			H18	0.77	0.37	—	
	体育館	S56	新基準	S2	1,400			耐震性あり			—	—	—	—	

<解説>

※1 「RC」とは鉄筋コンクリート造、「S」とは鉄骨造です。

※2 診断方法は、鉄筋コンクリート造については「第二次診断」、鉄骨造については「屋内運動場等の耐震性能診断(以下「屋体」という)」となります。

診断結果は「Is値」等により表されます。

「Is値」(構造耐震指標)は、建築物の耐震性能(地震に対する安全性)を数値化したもので、その値が大きいほど耐震性能が高いことを表します。国土交通省告示等により、第2次診断等により算定したIs値が0.6以上の場合が耐震性のある建物とされています。学校施設は文部科学省より0.7以上に補強するよう求められており、吉川市では 0.6×1.25 (学校校舎の用途係数)よりIs値が0.75以上になるように補強を行っています。

「 $CTU \times SD$ 」は、CTU(累積強度指数)とSD(形状指数)の積であり、鉄筋コンクリート造の建物についての指標となります。第二次診断による値が0.3未満である場合は、Is値が満足していても耐震性のある建物ではありません。

「q」(保有水平耐力に係る指数)は、地震による水平方向の力に対して建物が対応する強さを表すもので、鉄骨造の建物についての指標となります。値が大きいほど耐震性能が高く、1.0以上が目標値とされています。